

2009年夏季観測について

鈴木耀夫、中山良夫、土器屋由紀子
NPO 法人富士山測候所を活用する会

1. はじめに

2009年夏季観測は7月1日の開所を目指して、文化庁、環境省の許認可入手を間に合わせ、6月初旬より御殿場事務所を設置し、山頂班を雇用して準備を開始していた。しかしながら、天候不順と残雪のため、ブルドーザーが上がれず、開所は7月10日になった。(表1)

また、7月中は天候不順続き、山頂の仕事も難航を極め、NPOの医師の指導を受けながら酸素ボンベを用いた高山病処置も行われるなど自然条件の厳しさを痛感した。後半は比較的天候に恵まれ、2つの国際共同研究(日・仏と日・独)を含めて順調に研究活動が行なわれた。

2009年、富士山は例年になく死亡遭難事故などが相次いで報道されたが、NPOでは2007年のほぼ2倍の研究活動を無事に支え続けることができたことは、非常に幸運であった。

2009年夏季観測を振り返るとともに、来年度以降の展望について述べる。

表1. 設営の経緯

2009年	6月18日	御殿場基地開設、翌19日山頂班着任
	7月7日	放医研・保田チームが無線LANの試験に成功
	7月10日	富士山測候所開所
	7月13日	大気化学チーム(JAMSTEC、産総研、北大、金沢大)荷上げ
	7月14日	国立環境研グループがバッテリー100個荷上げ
	7月17日～28日	大河内グループ集中観測を実施(太郎坊を含む)
	8月15日、16日	富士山学校科学講座・見学会に22名参加
	8月30日	台風11号接近のため1日早めて閉所

2. 今年度夏季の山頂利用

2009年の夏期に山頂を利用した活動は23グループで、学術科学委員会で審査した研究活動16件、登山教育・活用委員会で審査した活用7件であった。研究活動のうち1件(電通大・長澤純一教授グループ)は台風の影響で、登山直前に中止を余儀なくされた。

なお、2009年の活用で特筆すべき事としては次のようなものがあげられる

- ① 郵便事業(株)平成21年度年賀寄附金配分事業に採択され、早稲田大学・大河内博グループの「日本の自然環境保全のための富士山を利用した越境酸性雨観測事業」が行なわれた。
- ② 国立環境研究所・向井人史グループによるバッテリー(100個)を使用した二酸化炭素の通年観測が始まった。
- ③ 国際的な共同研究が2題行われた(フランスグルノーブルCNRS大・P.Laj:金沢大・松木篤グループおよび北大・河村公隆:ドイツ・ライプツヒ対流圏研究所・J. Heintzenbergグループ)。
- ④ 環境省、文化庁の許可を入手してハイボリウムエアサンプラーの屋外設置(JAMSTEC・金谷有剛グループ、産総研・兼保直樹グループ、北大・河村公隆グループ)による研究が行われた。
- ⑤ 放射線医学総合研究所・保田浩志グループによる無線LAN通信が可能になり、観測期間中の大容量のパソコン通信、インターネット電話などが可能になった。
- ⑥ 排ガスフリーマイクログリッドシステムの試験を行い、太陽光発電については良好な結果が得られた。
- ⑦ KDDIによる携帯電話アンテナの設置が行われ、庁舎内および山頂周辺エリアで通信不能な地点が大幅に減少し、安心安全管理に寄与した。

3. 過去3年間の夏期の測候所利用活動

2007年以來の測候所利活用は、図1.に示すように利用研究者は年々増加傾向にある。また、利用者の研究分野についても、従来までの研究分野に加え、新たな活用の動きも出始めており、質的にも量的にもその利用価値は高まってきているといえよう。

一般公募の研究経費は、各研究グループの負担となるが、それとは別にNPOは、主として(株)電通などの初期の寄付金に加えて、海洋研究開発機構(JAMSTEC)との共同研究、国立環境研究所や新技術振興渡辺記念会からの委託研究、郵便事業(株)平成21年度年賀寄附金配分事業、などによって山頂の設営を行いこれらの研究をサポートした。

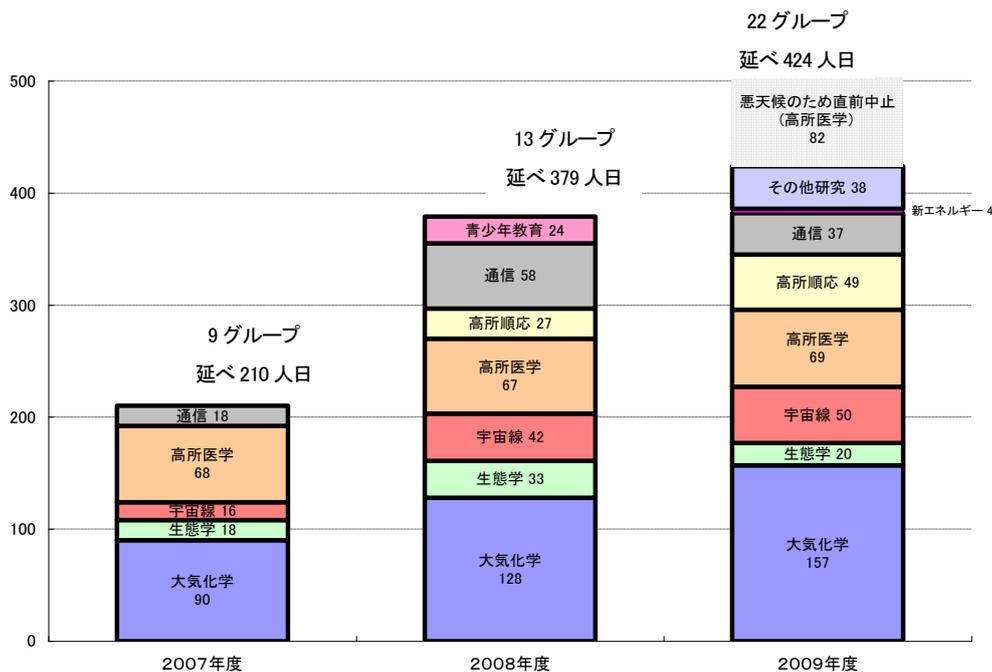


図1. 夏季観測研究参加人員の推移

4. 来年度以降に向けて

2007年～2009年の3年間、夏期2か月間、借用した施設の安全な維持管理に成功し、良い成果を上げることができた。また、NPOにより管理運営が行われていることに関する一般の理解も広がり、新しい研究への希望が増加しつつある。今後の安定的な維持管理のためには、下記のような課題が残されており、広い分野の方々のさらなるご支援をお願いしたい。

- ① 競争的研究資金の獲得とそれ以外の事業収入の摸索
- ③ 通年観測に向けての遠隔制御・通信の研究開発
- ④ 登山安全管理に関する対策
- ④ 排ガスフリー代替電源の開発と安定的なアース対策
- ⑤ 庁舎の補修等維持管理
- ⑥ 支援拡大のための広報活動の充実

*連絡先: 土器屋由紀子(Yukiko DOKIYA)、npo-fuji3776@yahoo.co.jp